設置台数ベース344台、設置

令和７年度「常用設置統計」

内発協の技術部はこのほど、令和７年度（2025年度）に国内で導入された「常用自家発電設備の設置実績」に関して、「アンケート調査」による集計結果を取りまとめ公表しました。それによると、常用自家発電設備の令和７年度の設置実績は、設置台数ベースで344台（対前年度比31.3%増）、設置容量ベースで112,531kW（対前年度比53.5%増）でした。平成26年度（2013年度）から令和７年度（2025年度）までの設置台数と設置容量についての推移をみると、平成28年度（2016年度）から令和６年度（2024年度）まで減少傾向が続いていましたが、令和７年度（2025年度）は設置台数と設置容量ともに増加しています。

【アンケートの調査方法】

「アンケート調査」の実施方法について、内発協の会員・非会員を問わず、ディーゼル機関（ディーゼルエンジン）、ガス機関（ガスエンジン）、ガスタービンを原動機として搭載した発電設備メーカを対象に「アンケート調査票」を送付し、各社から回答をいただき、集計を行いました。

また、調査対象について、ディーゼル機関、ガス機関、ガスタービンのいずれかを搭載した「常用自家発電設備（常時自ら使用する自家発電設備）」に限定し、令和７年４月１日から令和８年３月31日まで令和７年度内に国内で導入されたものに限定しました。

ただし、「送配電事業者等のように事業として他者へ電気を供給又は販売することを目的とした発電設備」「非常専用発電設備」「家庭用発電設備」は調査対象外としました。

設置先の施設種類別の設置実績

設置された施設の種類別に設置台数が多い順をあげると、１位はポンプ場等・事務所（ビル）共に59台、３位は「その他（※）」52台、４位は工場40台、５位は病院33台の順でした。

※「その他」とは、代表的な施設として「マンション」、「温浴施設」などがあげられます。

設置先の都道府県別の設置実績

設置された都道府県別に設置台数が多い順をあげると、１位は東京都42台、２位は大阪府36台、３位は京都府28台、４位は秋田県26台、５位は埼玉県・兵庫県22台の順でした。

同様に、前年度実績に比べ設置台数が大幅に増加した順を見ると、１位は福島県1200%増、２位は群馬県・岐阜県・鹿児島県400%増、５位は京都府300%増の順でした。

容量ベースで112,531kW

内発協の技術部まとめ

原動機の種類別の設置実績

搭載された原動機の種類別に常用自家発電設備の設置台数をみると、合計344台のうち、ディーゼル機関を搭載したものは12台（前年度実績12台）、ガス機関を搭載したものは323台（前年度実績245台）、ガスタービンを搭載したものは９台（前年度実績５台）でした。

コージェネレーションシステムの設置実績

常用自家発電設備の設置台数344台のうち、「排熱回収を行っているコージェネレーションシステム」の設置台数は301台（前年度実績248台）でした。常用自家発電設備に占めるコージェネレーションシステムの導入比率については87.5%で前年度実績94.7%と比べ微減となりました。

搭載された原動機の種類別にコージェネレーションシステムの比率をみると､次のとおり。

▼ディーゼル機関を搭載した常用自家発電設備12台のうち、「ディーゼルコージェネレーションシステム」０台（構成比率0.0%）でした。

▼ガス機関を搭載した常用自家発電設備323台のうち、「ガスエンジンコージェネレーションシステム」は295台（構成比率91.3%）でした。

▼ガスタービンを搭載した常用自家発電設備９台のうち、「ガスタービンコージェネレーションシステム」は６台（構成比率67.0%）でした。

使用する燃料の種類別の設置実績

使用する燃料の種類別に常用自家発電設備の設置台数の実績をみると、次のとおり。

▼都市ガスなどの「気体燃料」仕様は最多の247台（前年度実績247台）でした。設置台数の全体の71.8%を占めました。さらに、原動機の種類別に、設置台数の内訳をみると、ガス機関238台、ガスタービン９台となりました。

▼消化ガスなどの「バイオ燃料」仕様は主に下水処理場、農場向けに85台（前年度実績３台）でした。設置台数の全体の24.7%を占めました。原動機の種類別に、設置台数の内訳をみると、ガス機関85台となりました。

▼軽油や重油などの「液体燃料」仕様は12台（前年度実績12台）でした。設置台数の全体の3.5%を占めました。原動機の種類別に、設置台数の内訳をみると、ディーゼル機関12台となりました。

常用の出力別の設置実績

令和７年度の常用自家設備の設置実績について、設置容量（発電出力）別にみた、設置台数の内訳は【別表】のとおり。

【別表】常用自家発電設備の設置容量（発電出力）別の設置実績

	合計		前年度同期合計		対前年度増減率（%）	
出力クラス	台数	出力（kW）	台数	出力（kW）	台数	出力
10kW未満	28	140	42	210	－33.3	－33.3
10kW以上～100kW未満	243	7,135	172	5,315	41.3	34.2
100kW以上～300kW未満	4	726	8	1,616	－50.0	－55.1
300kw以上～500kW未満	24	10,426	9	3,708	166.7	181.2
500kW以上～1,000kW未満	20	20,040	12	7,820	66.7	156.3
1,000kW以上～3,000kW未満	16	21,774	12	14,657	33.3	48.6
3,000kW以上	9	52,290	7	40,000	28.6	30.7

一方、防災用の「出力区分別」に従って仕分けた場合、設置台数の内訳は以下のとおり。

●防災用出力区分「Sクラス・100kW以下」に該当するものについて

▼10kW未満のものは28台（前年度設置実績42台）でした。

▼10kW以上～100kW未満のものは243台（同172台）でした。

▼「小規模容量・100kW未満」クラスの設置台数は合計271台で、設置台数の全体に占める割合は78.8%でした。

●防災用出力区分「Mクラス・100kW超～500kW以下」に該当するものについて

▼100kW以上～300kW未満のものは４台（同８台）でした。

▼300kW以上～500kW未満のものは24台（同９台）でした。

●防災用出力区分「Lクラス・500kW超～1,000kW以下」に該当するものについて

▼500kW以上～1,000kW未満のものは20台（同12台）でした。

●防災用出力区分「Uクラス・1,000kW超」に該当するものについて

▼1,000kW以上～3,000kW未満のものは16台（同12台）でした。

▼3,000kW以上のものは９台（同７台）でした。